

11月定例会 本会議質問

昨年12月3日の本会議で自民党議員団を代表して山田知事に質問をしました。

児童虐待対策について

(一之湯) 先ごろ、宮津市で痛ましい児童虐待が起こり、全国的にも悲惨な事件は後を絶たない。府内の状況を確認し事態の改善を期待したい。

①児童相談所における、児童福祉司や教員・警察OBの配置状況は？また、各地域で「要保護児童対策地域協議会」は設置されているのか。地域住民との日頃からの連携の状況は？

②市町村職員や学校の教職員の研修に対して、府が果たしている役割は？

(山田知事) ①児童福祉司は厚労省の基準より多く配置し、教員OBは家庭支援総合センターに1名の配置であるので、今後増やしたい。警察OBは府内で5名だ。「要保護児童対策地域協議会」は平成18年の長岡京市での事件以降、全市町村で設置した。協議会で日頃から関係機関の連携を深め、虐待の未然防止に努めている。

②市町村職員は地域での取組の中心なので、府が年4回の研修や事例検討会議を開催し、能力向上を図っている。教職員には、府教委が指導している。



②「森林環境税」導入の検討状況は？「府内産木材」を使用した製品の普及促進に使うような検討はあるのか？

③木材の産地地消を進める政策で、府は府内産木材を、市は市内産木材を、二重行政になっている。どう調整するのか？

(山田知事) ①人工林12万6千haの64%に当たる8万1千haで境界確定が完了した。残り4万5千haの整備を急ぎたい。路網整備は、河川の流域における森林計画の中でhaあたり50mが目標だが、現在45%しか整備できていない。今後しっかりと進めたい。

②通常の森林整備の拡充か、境界確定の推進か、流通の改善なのか、環境税を何に使うかが大きな検討課題だ。引き続き検討したい。

③府は府内での地産地消、市は市内での地産地消を考えるのが基本だが、その中で業者の混乱や二重行政にならないように努める。

地方行政のあり方

(二之湯) 市町村合併、関西広域連合の設立など、地方行政が大きく変わる今、府政の最重要課題として京都市との連携の悪さ・二重行政を克服することが不可欠だ。

①市が府に求める財政支援に際しては、市にも行政改革の努力を求めべきではないか。

②「国際センター」や「男女共同参画センター」など、市内にある府立・市立の類似施設の本体化や、府市の産業政策の組織の本体化を図り、施策の整合性と府市双方の経費削減を目指すべきではないか？

(山田知事) ①府県とほぼ同等の権限と財源がある京都市に、そもそも小規模市町村に対してのような財政支援が必要なのか疑問がある。

②類似施設の統合は進めるべきだが、その中で京都市の個性をいかに確保するかが検討課題である。産業面では、「京都産業育成機構」の設立をオール京都で目指すなど、二重行政を排して行きたい。

森林整備について

(一之湯) 外国資本が山林を買い進めている。これを防ぐ法整備も急務だが、「木が使われ売れる、だから所有者が山に関心を持ち手入れする」といった経済環境も構築すべきだ。国は、木材自給率50%を目標に、所有者が異なる森林をまとめて手入れする低コストの作業を推進する方針だが、まずは山林の境界確定をして路網を整備する必要がある。

①府域の何%の森林で境界確定がなされ、いつまでに終わらせるのか。その後、林道をどの程度の密度で張り巡らせる予定なのか？

"しんじ"を信じる 京都府議会議員 第10号 編集・発行 二ノ湯しんじ事務所

〒616-8167 京都市右京区太秦多藪町44-1
TEL: 075-862-1355 FAX: 075-862-1350
ninoyushinji@palette.plala.or.jp

二ノ湯しんじ通信

～今こそ、伝統が未来を拓く！～

「地方から国家100年の計を論じるべき時」



旧年中は大変お世話になり有難うございました。本年もご指導の程、宜しくお願い申し上げます。大雪の被害には、心よりお見舞い申し上げます。寒さが厳しい折、引き続きご自愛ください。

常識外れのニュースには事欠かない昨今となりました。今まで経験したことのない大きな変化が押し寄せて、落ち着いた不安な日々をお過ごしの方も多いいこと存じます。激変の今こそ、我々政治に携わる者は、新たな国家100年の計を論じなければなりません。少子高齢化への対応。心豊かな高齢社会を迎えるには、住みながら家や地域で家族や友人といつまでも暮らせる体制整備が不可欠です。家族介護の限界も指摘される中で、専門家による地域介護・医療の充実、そのための投資が重要です。

環境問題への対応。地球温暖化のみならず、生物多様性の減少(自然界の水が浄化できなくなる等の問題が発生)、食料・水の不足など、大変深刻です。地球に過度な負荷を与えない低炭素社会の実現に加え、国内の農林漁業の活性化も急務です。

成長産業の育成。今春の卒業生の就職難が言われています。今でも選ばなければ仕事はあると言われますが、今後は従来の基幹産業が海外進出し、全体的に仕事が減っていくでしょう。京都では、「文化・観光・環境」関連産業の活性化と雇用創出が急務です。

いずれにも、大規模な投資が必要ですが、その財源は、府市の二重行政を解消することで捻出すべきです。1期4年間、府議会議員として活動させて頂き、府市のムダな二重行政が多く、連携もできていない実情を学びました。本日の府市協議ができれば京都の可能性は限りなく確信し、その実現に向けて精一杯努力します。引き続きのご指導を宜しくお願い申し上げます。

活動報告会を開催します

・とき: 2月25日(金) 19:30～
・ところ: 右京ふれあい文化会館ホール
参加費は頂きません。

1期4年間の議員活動で学んだことをご報告させていただきます。これからの右京・京都を皆さまと共に考える一夜となれば幸いです。ご多忙の折とは存じますが、是非ともご参加くださいますようお願い申し上げます。

ホームページもご覧下さい!
URL: www.ninoyu.net

二ノ湯しんじ 検索

◆インターネットラジオ放送で、「ラヂオしんじ」の配信を始めました。

〈色々な形で活動をお伝えします。皆様からもご意見や感想をお願い致します。〉

府議会情報

【2月定例会】
2月7日～3月11日
平成23年度当初予算案を中心として審議します。11月定例会で議決された京都府の基本計画「明日の京都」に沿った初めての予算案です。

「府民安心の再構築」「地域共生の実現」「京都力の発揮」が3本柱で、一般会計887.8億円、特別会計と企業会計を合わせた総額は1兆1640億円となっています。



◆お問い合わせは、二ノ湯しんじ事務局まで

お困りごとなど「しんじ」相談ください

皆様にとつて、行政の仕事の役割分担は分かりにくいものです。「しんじ」相談に行けばいいのかわからない時は、私の事務所まで、お気軽にお問い合わせください。

東映京都撮影所 広隆寺 京福嵐山線 大映通 二ノ湯しんじ事務所

右京区太秦多藪町44-1(大映通り)
TEL 075-862-1355
FAX 075-862-1350

◆もしも語り合おう！

二ノ湯しんじは、教育のこと、環境のこと、福祉のこと、地域のこと、そして京都や日本の未来のことなど、皆様とお話できる場をたくさん作っていきたくて考えています。時間や場所、人数は問いません。どのような会でも結構です。皆様のお声を聞かせてください。

千年のみやこ・京都は、日本の宝、世界の宝 行政のあり方次第でその魅力はもっと高まる！

「府市協力で、二重行政を解消しよう！」

掲示にご協力頂いているポスターの私の右の部分に「府市協力、二重行政の解消を！」とあります。「具体的にどういふことなのか？」とよく聞かれますので、ここで簡潔にご説明します。

二重行政とは、京都市内で府と市が同じ（ような）仕事をしていることです。一つの仕事に、府庁にも市役所にも人が配置されているので、人手（つまり人件費）が2倍近くかかっていると言えます。どちらかが仕事をやめるか、一緒に仕事をするかで、行政サービスを損なうことなく随分と府市双方の経費の節減に繋がるのです。

例えば、10年程前に統合が検討された、府の「保健環境研究所」（職員数45名程度）と市の「衛生環境研究所」（職員数80名程度）という類似施設があります。ともに感染症や食中毒の検査、大気や水質の検査など同種の仕事をしています。同じ時期に、双方の施設や器材の更新時期を迎えたので、一本化しようという話が持ち上がりましたが、うまくいかなかったようです。

しかし、もし統合できていれば、高価な器材の購入費や人件費などが節約でき、府市合わせて10年単位で50億円〜100億円ほど税金が節約でき、他の事業に使えたということになります。京都市では、保育や教育の充実、京都府では都市部での中小企業支援や過疎地の経済対策など、重要課題により手厚く対処してきました。府市協力で「二重行政の解消を！」とは府市が協力してムダを排し、本当に必要なところにより多くの税金を使うべきだと、訴えているのです。

ポスターの掲示にご協力をお願いします



上の写真は、活動報告会を告知するポスターです。右京区選出の3名の市議員さんとの連名ポスターとなっています。選挙告示日の前日（3月31日）まで掲示できます。掲示にご協力頂ける方は、事務所までご連絡ください。

二ノ湯しんじ事務所 (TEL) 862-1355

「府市協力で、京都の可能性を引き出そう！」

京都は、誰もが認める国際文化観光都市であり、世界的に貴重な精神文化の集積地と言えます。しかし、そんな京都に多くの外国人を受け入れる体制が充実しているかと言えば、まだまだ十分だと思いません。

例えば、外国から行政・学会・ビジネスの国際会議を受け入れるための会議場を府市が協力して整備してきたでしょうか。あるいは、スポーツの世界大会を受け入れるために、体育館・陸上競技場・スタジアム・プール等の施設を府市が協力して整備してきたでしょうか。

かつては、世界から観光客を呼び込もうという時代ではなかったかもしれませんが、これからは悠久の歴史を持つ日本、特に京都は観光を基幹産業にすべきだと思います。長期滞在型の国際観光は、地元への経済波及効果が極めて高いのです。実際、国では「観光庁」も新設され、観光産業の育成に本腰を入れ始めました。

観光客のために、おもてなしの心で基盤整備を進めることは、住民にとっても住みよい環境を整備することに通じます。府市双方が都市の魅力や格を高めるという視点から、協力して基盤整備を進めるべきです。文化・芸術関連の施設にしても、資料館や図書館にしても、その視点から改善できることはたくさんあります。これからは、特に府市ともに財政が厳しいですから「これは市がする、これは府がする」という縄張り争いによって、街の発展を阻害するようなことがあってはなりません。府市が協力すれば、もっとも京都の魅力は高まるはずですよ。

家族—かけがえのないもの—

日頃は家族と過ごす時間が少なくなりがちですので、先日、選挙準備の中で必要な写真を撮影した時は、家族そろってスタジオ入りしました。家族写真も撮って頂き、良い記念になりました。

4年前の撮影には、私一人で臨みました。その時は、初めてということもあったので、出来上がった写真には非常に不自然な表情が目立ちました。

今回は、カメラマンさんが「もっと笑顔で」と言いながら、私の長男に、シャッターを押させたりしました。出来上がった写真は、自分でも驚くような自然な笑顔が目立ちました。心の奥からこみ上げてくるものが、私の表情を作ったのだと思います。改めて、家族の有難さを実感しました。



私が抱くのは長男・一樹（いつき）
妻が抱くのは二男・万暉（まき）